

Design for multi-family housing due to relocation of marginal villages.

Department of Infrastructure Systems Engineering

1195083

Kyohei Miyagawa

### Abstract

The marginal villages originated in Otoyo-cho, Kochi Prefecture. In this town, it is predicted that approximately 80% of the population decreases in 45 years. I study it among this town. This suggestion is the plan that the Marginal Villages of the town relocation to the center of the town. In this Master's design, it aims at design to Multi-Family Housing due to the relocation of Marginal Villages which they gather in one place. I follow folk intellect and a tradition in local people and design the place to inherit it to coming ages.

## 修士設計趣旨

### 複数の小規模集落移転による多世帯住宅群の設計 Design of Multi-Family Housing due to relocation of Marginal Villages

社会システム工学コース

1195083 宮川 馨平

「限界集落発祥の地」と呼ばれる高知県大豊町。全体の約8割を限界集落が占めており、2060年までに人口の約8割が減少すると予測されている。限界集落では、コミュニティの衰退、住居の孤立化、医療等の行政サービスの希薄化など様々な問題を抱えており、人口減少が止まる兆しはなく、近い将来多くの限界集落が消滅する事態はもはや逃れられない現実になっている。

高知県大豊町内において、町に少数で四散している小規模の集落が、町内の中心部へと移転し、それらが複数集まることで構成される多世帯住宅群を設計する。集落の移転によって限界集落が抱える問題を解決すると同時に、集落に残された良き伝統を後世につないでいくための地域づくりはできないかと考えた。しかし、愛着のある集落に住み続けたいと考える住民は多い。その一方で、住民は移転後の生活について明快なイメージを持つことはできていない。移転後の生活を明示することで、住民の選択肢の幅を広げることを目指し設計を行った。

既存集落の調査・考察を経て、「集落移転のデザイン指針」を導き出した。「集落」であった記憶を空間として内包しつつ、地域の資産として未来へつながる「集落移転による建築の空間デザイン」の提案である。